

令和3年度第1回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：令和3年8月17日（火）15時～17時10分

場所：高松市立みんなの病院 みんなのホール

（オンラインによる開催）

【出席者】

- （委員） 会長 谷田 一久（株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表）
副会長 伊藤 輝一（一般社団法人高松市医師会 会長）
田宮 隆（国立大学法人 香川大学医学部附属病院 病院長）
藤田 徳子（株式会社フェアリー・テイル 代表取締役）
和田 頼知（和田公認会計士事務所 公認会計士）
安藤 幸代（公益社団法人香川県看護協会 会長）
二島 多恵（公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表）
吉田 静子（高松市婦人団体連絡協議会 副会長）

（事務局）市職員 25名

（傍聴者）なし

開会 15:00～

1 病院事業管理者挨拶

本日は、ご多用中にも関わらず、「高松市立病院を良くする会」にご出席を賜り感謝している。また、日頃より御助言、御指導いただき、重ねてお礼申しあげたい。御存じのように、香川県では現在、香川県独自の非常事態宣言を発令し、8月9日からは6段階の内の最高警戒レベルである、緊急事態対策期、国の基準に置き換えると、ステージⅣに移行している。また、8月20日からは、蔓延防止等重点措置の適用が決定したことに鑑み、今回もWEBでの開催とさせていただいた。対面でないことで、なかなか深い話ができないが、何卒よろしくお願いしたい。

さて、今回は、令和2年度の実績報告と、令和3年度の目標について、みんなの病院と塩江分院の発表をしたい。さらに当院の新型コロナウイルス感染症対応の報告を行いたい。

この「高松市立病院を良くする会」は、平成23年から、医療の質、透明性及び効率性の向上及び病院事業の経営健全化を図り、市民を支え、市民のための病院の実現の資することを目的に設置された。病院を取り巻く状況は、毎年変わっており、その時々状況に応じて貴重な御意見を賜っていたが、今回の新型コロナウイルス感染拡大の状況は、今までの常識が全く通用しない未曾有の事態となっている。ただ、当院は第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた当初より継続して対応しており、高松市、ひいては香川県の中で、新型コロナウイルス感染症患者を一番多く受け入れ、非常に存在感を増した病院となっている。また、新型コロナウイルス感染症以外にも、救急、一般診療も同時に継続して行っており、高松市の公立病院として、ここにきて正に面目躍如といったところであると自負してい

る。

みんなの病院も開院から早3年になり、ようやく内外ともに落ち着いてきたが、しだいに新病院効果も薄れつつあり、それに加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、現在、平時の判断ができていないと感じている。また、塩江分院については、過疎化が深刻化しており、年々、非常に厳しくなっている。ただ、無床化という次のステップが決定しており、それまで地域医療を維持できるよう努力したい。それにはみんなの病院との緊密な連携と一体化を進めようと考えているところである。

改めて、お気づきの点、改善点等あれば忌憚ない御意見をいただき、御指導願いたい。

2 議題

(1) 会長・副会長の選任について

高松市立病院を良くする会設置要綱第4条第1項に基づいて、会長を互選。副会長は会長指名。

会長 互選結果：谷田委員

副会長 会長指名：伊藤委員

(2) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況（令和2年度実績）について

(ア) 高松市立みんなの病院

高松市立みんなの病院院長（病院事業管理者） 説明

(委員)

新型コロナウイルス感染患者を自宅に帰す前に、後方病院へ転院してもらうが、後方病院との連携は図れているのか。

(病院事業管理者)

高松市に協力病院がいくつかあるが、十分な数とは言えず、また十分な機能を果たしていない状況である。

(みんなの病院副院長)

新型コロナウイルス感染患者については、基本的に保健所が調整を行っており、当院から直接協力病院に依頼することはない。また、今回、第4波の時より自宅安静患者が増えており、入院のハードルが少し高くなっている。ホテル、自宅療養も利用しつつ、効率的な病床管理に努めているところである。

(会長)

高松市のHPを確認したところ、高松市の新型コロナウイルス感染症陽性者は、1900人を超えている。みんなの病院が、香川県において新型コロナウイルス患者を一番多く受け入れているとは言え、数に開きがあることから、感染患者がどういう処遇を受けることになるのか、みんなの病院の役割、位置づけが分かるように説明願いたい。当初は、軽症の患者も入院という形を取ってきたと思うが、経験値が上がることで、入院するか否か判断する仕組みが進化してきたと思うが。

(病院事業管理者)

現在、自宅またはホテルで療養されている患者が多くいる。入院となっている方は少なく、その中で当院が対応している患者は、200人強である。だんだんと満床になり、物理的に入院が不可能になりつつある状況である。当初は患者数が少ないこともあり、陽性患者は全て入院としてきたが、だんだんと陽性患者が増えてきたことで、ホテル、自宅療養の形をとることになってきた。

(会長)

満床で入院できないということは、医療体制が逼迫しているということである。このような状況の中、みんなの病院が役割を果たそうとしているところを示していただきたい。

(病院事業管理者)

当院としては、当初より受け入れをし、1病棟全て閉鎖し、精一杯対応している。要請も1番最初に受けている。これをずっと継続して行っている。今も満床状態でありながらも受け入れている状況である。

(委員)

現在、香川県でも新型コロナウイルス感染者が爆発的に増加しつつあり、近く蔓延防止重点地域の認定がされる。香川県では、重点医療機関で情報共有しながら県の指導の下に対応しているところだが、みんなの病院におかれては、非常に多くの新型コロナウイルス感染患者を受け入れていただき、新型コロナウイルス感染症に関して、中心的な役割を果たしていただいている。香川大学医学部附属病院でも、1病棟閉鎖し、対応しているが、病床数よりも、新型コロナウイルス感染患者を診る知識を持った医師、看護師の確保が難しい状況である。今後の発生状況によっては、非常に厳しい状況になることが予想される中、みんなの病院は、多くの患者を対応していただいている状況だと理解している。

(委員)

先程、話題に挙げた後方施設の問題も含め、高松市医師会の問題として捉えている。現在、保健所を通じての指示となっているが、今後は、多少突破口を作り、ここまでの経験を活かし、みんなの病院と協力しながら、開業医としてやるべきことをやっていきたい。

(会長)

先日、香川県立病院の外部評価委員会があったが、新型コロナウイルス感染症対応について、どこの医療機関がどのくらい対応したかといった資料が出てこなかった。兵庫県では、県立病院が重症者の約8割を対応している。こういった具体的な数字が出てくるだけでもイメージがしやすい。全体像が見え、地域住民の皆さんが安心できるようなものを、是非、お考えいただければと思う。

(委員)

PET-CT について、さらに広報活動に注力し、稼働率向上に繋がりたい。ドック検診での利用を促進することも一方策である。

(会長)

他県では、市立病院が新型コロナウイルス感染患者を受け入れていることで、医師会から紹介しづらいといった事例があるが、みんなの病院におかれてはどうか。

(委員)

医師会の立場から、高松市においてはそういった事例はない。患者側から多少そういった意見があるのかも知れないが、医師会として、そのような意見は聞いたことはない。

(委員)

働き方改革について、「いきいき働く医療機関サポート Web (通称：いきサポ)」というサイトで、時間外勤務削減対策として実際に行った事例を掲載している。医師に限らず医療職全般に参考となる事例が多く掲載されているので、参考とし、時間外勤務削減に繋げてほしい。

(イ) 塩江分院

塩江分院院長 説明

(委員)

塩江分院の取組の地域包括ケア体制の推進について、高松市社会福祉協議会塩江と塩江分院との協力連携とは具体的にどういったものか。

(塩江分院院長)

各患者に対して、社会福祉協議会と医療職の双方で知恵を絞り、施設への入所、または入院を勧める等の方向性を患者の状況に応じて相談している。

(委員)

訪問看護について、令和2年度は減少しているが、考えられる原因は何か。また、実績の

1,872 は件数なのか、人数なのか。

(塩江分院看護局長)

訪問看護件数減少について、毎日利用されていた患者が亡くなられたことや施設入所などが大きな要因である。また、件数については、延べ利用者件数である。

(塩江分院院長)

塩江地域は、毎年約 100 名人口減少している。それと同時に施設に入所する高齢者も多く、施設に入所した患者は、訪問看護を利用しなくなる。その二つが大きな理由であると考えます。

(委員)

塩江地域以外のエリアは拡大しているのか。

(塩江分院院長)

約 8 割が塩江町、残り約 2 割が三木町などの患者となっている状況である。

(会長)

訪問看護を利用されている人数と、その推移はどうなっているのか。

(塩江分院事務局長)

1 か月で利用者が多い時は 30 名程度だったが、現在は、25 名程度となっている。

(委員)

資金収支の均衡を図る観点から、訪問看護、訪問診療について、さらに活発な営業活動が必要なのではないか。今後、高齢者の多い過疎地域での訪問看護、訪問診療は、非常に重要な機能となる。高齢者が多い地区では、患者が病院に出向くよりも、医療職の皆さんが、患者の自宅に出向くニーズの方が高いのではないか。

(塩江分院院長)

塩江地区では、実際、訪問看護に伺っているのは、行く度に点滴をしなければならないような重症度の高い超高齢患者であり、1 人に対して多くの時間が必要となっている。入院を勧められているが、家族の理解が得られず訪問看護に至っているような状況もあり、他の施設と比較が難しいと思われる。

(会長)

訪問看護にも様々な違いがあり、塩江地域は大都市部とは違った訪問看護のスタイルが必要である。

(委員)

附属医療施設の計画的な推進について、新しい塩江分院は地域住民に安心感を持たれるような存在を目指すべきである。塩江分院の在り方は、地域住民にとって、高齢化が進んでいく中で非常に大切なことである。附属医療施設は、みんなの病院との連携をさらに強化するものとして、存在価値、安心感の持てる整備であることをアピールされたい。

(委員)

附属医療施設は、在宅医療、地域包括ケアということで、訪問診療、訪問看護を徹底すること。加えて、紹介体制の構築を徹底し、地域住民の安心に繋げてほしい。

(塩江分院院長)

今後、塩江地域が高齢化していく中で、継続して医療を提供できるように、日々、診療をしてまいりたい。

(ウ) その他

(委員)

みんなの病院の看護局の離職率について、新卒者の離職率が高いが、採用に問題があるのではないか。

(みんなの病院看護局長)

ベテランスタッフと若いスタッフの2極化が進んでおり、中間層がないため、ジェネレーションギャップが生じている。また、教える側は口下手なところがあり、教えられる側も、コミュニケーションを取りながら、自分から進んで学んでいくという姿勢が弱い傾向がある。このことから、昨年より、パートナーシップ・ナーシング・システムを取り入れ、試行錯誤しながら進めているところである。育成者を育成することも課題としており、クリニカルラダーを導入し、育成者の育成に注力しているところである。

(委員)

新人看護職員の離職は、みんなの病院だけでなく、看護協会全体の大きな課題である。特に香川県は離職率が高い傾向があり、一昨年は、全国で2番目に高かった。この件について、代表者会議や、教育施設の先生方と対策を検討しているところである。また、新人看護師が疲弊する時期に、大学の先生に病院へ出向いていただき、卒業生に声かけしていただくなど、前向きな取り組みを行っているところである。

(委員)

香川大学医学部附属病院でも、昨年度から今年度にかけて急に離職率が高くなっており、問題となっている。これも大きな原因は新型コロナウイルス感染症と考えており、特に新人の

方々が、他のスタッフとの懇親もなく、交友が殆どなくなっている。職場では、色々悩みや相談事もあると思うが、そういったことを一人で抱えてしまい、離職につながっているのではないかと推測する。やはり対面での関係性が重要なのではないかと感じている。

(会長)

私は、他大学で、医療経営学の講義をしており、その中で、組織論について話すことがある。組織論では、組織の中で孤立することがあったとしても、大きな組織の中ではそういう時期もあるし、その次のステップがどうなっているのかを示すことが経営者の役割、責任者の役割として存在するという授業をしている。若い世代にそういうことを知ってもらうことも大事なのではないかと感じている。

(3) 令和2年度病院事業会計決算概要について

経営企画課長 説明

(委員)

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援補助金について、現在、新型コロナウイルス指定感染症の区分が下がる議論がされており、早い段階で補助金が受けられなくなることが予想される。それに対応することが、今年の大きな課題ではないか。いかに患者数を確保していくかが最重点課題となる。そのためには、医療機器の有効活用と患者数の確保に注力し、補助金を受けずとも資金収支の均衡がはかれるように取り組まれない。

(会長)

1病床を空けるということは、政策的に高松市の感染症対策を担うということで、結果として補助金が入っている。圧縮された一般病床は、効率的な病床管理に努めるなど、できるだけ従来どおりの医療機能を維持し、両輪で努力されていたのだろう。機能維持をどこまで続けていくかということは、補助金とは別次元でなされるべきではないか。

(病院事業管理者)

新型コロナウイルス感染症の受け入れを開始した当初は、補助金があることは想定外で、身を削ってもという思いで対応してきた。さらに経営状況が厳しくなることを覚悟していたが、幸いにも補助金をいただけることとなった。感染対策を考えながら、看護体制その他、考慮して対応しているところである。

(会長)

みんなの病院の収益的収支の収益対費用の資料表記について、新型コロナウイルス感染症に係る費用、補助金に見合う費用、感染症対策に振り向けられた人的支援、材料費等も記すよう、今後、資料表記に工夫をされたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症への対応について

経営企画課長 説明

(委員)

新型コロナウイルス感染症への対応について、病院全体で前向きに取り組まれていること、また、今まで取り組まれたことを教えていただいたことは、本日の一番の収穫であった。一般市民として、地域や各団体にこのことを報告させていただきたいと思う。専門の方の取組に感謝し、個人として感染防止対策にさらに留意して生活していかなければならないと痛切に感じた。

(委員)

医師会としても、みんなの病院が取り組まれている内容を把握しておらず、感服しているところである。現在、都会では、酸素ステーションの設置について議論されているが、香川県においても前向きに検討していただきたいと考えている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症対策については、香川大学医学部附属病院でも先が見えず、みんなの病院におかれても、本当に苦勞されていることと察する。香川県、医師会、重点医療機関が協力して対応していかなければならない。今後も情報共有も含め、協力体制を整えて対応していきたい。

(委員)

香川県看護協会としても、大変な時期に、みんなの病院から事業への御協力をいただきありがとうございます。心苦しく思うが、今後ともよろしくお願ひしたい。

(委員)

本日の会議で、新型コロナウイルス感染症対応と通常医療維持のお話を伺い、安心に繋がった。

(委員)

資料表記については最新のものを使用するよう留意すること。

(会長)

今日は貴重な御意見をいただき感謝している。

以上で、令和3年度第1回高松市立病院を良くする会を閉会する。

閉会 17:10